

学長のコラム

コンケン大学に行ってきました (2/2)

3日目の9月16日(土)は、ピマーイ歴史公園(Phimai historical park)に連れて行っていただいた。医療学部長のDr. Patcharee(以下Dr. Patと略させていただきます)の御配慮であるらしいが、お休みにもかかわらず、ピマーイ地域出身のAMSのDr. Amonrat(女性)とDr. Molin(女性)とMark助教(フィリピンからの交流研究者)そしてMs. Supapornと大学のマイクロバスで8:00出発。バンコクからラオスマで通じるという国道2号線を約150km南下、約2時間半走って到着。9世紀から13世紀ころまで、現在のカンボジア、ラオス、タイ、ベトナム南部はクメール王朝の支配下にあったが、この遺跡は11世紀前後のクメール遺跡で、まさに、アンコールワットの小型といった感じ。12:00頃公園を出て、カフェとタイ料理の昼食後、さらに50kmほど南下して、Nakhon Ratchasimという町にある、この地域で最も古いという寺院へ。その後、北上しコンケンに向かう。コンケン到着直前に激しいスコールに見舞われるが、18:00頃ホテル着。

17日(日)は、今村さんとクルーは、留学中の看護の学生たちをキャンパス内で撮影するとの計画で、出発。小生は、待機。15:00に迎えが来て、キャンパス内の池をバックに学長インタビューを収録。「学生が海外に出る意義は、見聞を広めること、英語でのコミュニケーション力などを身につけることであるが、すぐにはうまくできないし、日本の事を聞かれても説明できない自分を知って、更なる研鑽の原動力を得ることにある。海外経験をしたいという志ある人は、どうぞ熊本保健科学大学へ」とのメッセージを収録していただいた。

18日(月)午前中は、医学部長との面談であったが、副学部長対応。やはりMOUを結びたいとのこと。その後、病院見学。昼食は、医療学部の人々と一緒にダウントウンで日本食堂のラーメンをいただく。それなりにおいしい。キャンパスに戻りDr. Patに連れられ車で、学長に会うために大学本部へ。ところが、車の中で、学長は忙しいので副学長対応となる旨聞かされる。驚いた私は、とっさにDr. Patに、「何とか学長と握手だけでもする時間を造ってほしいと」お願いすると、彼女も同意してくれて、学長秘書に電話をして、了承を得てくれた。

撮影クルーに事情を話し、その瞬間を撮影するように指示。結局、約束の時間の最初に、何とか握手する画像をとり、後は、副学長対応に甘んじた。3学部長も同席。その後、医療学部のオフィスに移動して、Dr. PatとMOUにサインをして、交換する。その夜は、また、Dr. Patが我々のホテルのレストランで、会食を設定してくれた。さすがに、申し訳なく、こちらで支払う算段をして今村部長に支払ってもらった。その後、Dr. Patの他、Dr. WichaiとMs. Supapornも空港まで見送りに来てくれた。本当に、この3人には、最初から最後までお世話になった。



*ピマーイのクメール遺跡



*学長に会うための国王に対する記帳机

10月・11月・12月の主な行事予定

10/27(金)	交換研修生・帰国報告会 12:05~キャンパステラス
10/31(火)	医学検査学科 臨地実習認定式
11/1(水)	学術講演会「脳回路から脳機能を眺める」14:40~16:10
11/4(土)	リハ社会人・助産別科推薦・大学院推薦選抜・社会人選抜(I期)入試
11/6(月)	インフルエンザワクチン接種(教職員) 15:00~16:00 入試業務説明会・面接研修会(主に教員) 18:00~
11/7(火)	入試業務説明会(主に事務職員) 14:00~ 入試業務説明会・面接研修会(主に教員) 18:00~
11/11(土)	指定校推薦・一般推薦入試 *出勤日→振替休日 12/28
11/19(日)	平成29年度 市民の健康生活を考える会(MUSASHI会)
11/21(火)	定期健康診断(教職員対象) *年1回
11/27(月)	防災訓練 11:45~12:15 *年1回
11/28(火)	インフルエンザワクチン接種(教職員) 14:00~14:30
11/29(水)	学校法人銀杏学園 理事会
12/2(土)	助産別科一般入試
12/9(土)	看護学科臨地実習合同研修会
12/10(日)	チャレンジ熊本大!一般入試対策講座
12/14(木)	杏友会(教職員)親睦会 19時~ホテル日航熊本
12/27(水)	仕事納め式 11:00~ (注)勤務時間は、8:30~12:00
12/28(木)	※H29.11/11(土)推薦入試日(出勤日)の振替休日
12/29(金)	年末・年始休暇(職員) 12/29~1/3

認定看護師教育課程 認知症看護分野修了式

桜の葉が紅く色づきはじめた9月22日、認知症看護分野 一期生23名に、石丸センター長より修了証書が授与されました。認知症の人は、地域の中に特別な存在ではなく生活されていること、認知症の人びとへの支援体制が急務であり修了生がその役割を担っていく立場にあることを、大牟田病院名誉院長 藤井 直樹様、熊本県看護協会長 嶋田 晶子様よりご祝辞をいただきました。認知症看護認定看護師としてのご活躍を心より祈念いたします。

(文責:認知症看護分野

主任教員 飯山有紀)



詩と講談「夫婦幸福ライブ」

9月28日(木)、東京で活動する講談師の神田京子さんと、夫で詩人の桑原滝弥さんによる「夫婦幸福ライブ in くまもと2017」が、熊本地震の復興支援の一つとして50周年記念館にて開催されました。当日は学生、教職員、地域の方等52名の参加があり、面白おかしく、時に勇ましく展開される講談と、参加者も巻き込みながらの詩のパフォーマンスに、笑いの絶えない90分となりました。(文責:企画課)



医学検査学科・卒業研究発表会

9月22日に平成29年度卒業研究発表会が、口頭形式で21題、ポスター形式で13題の計34演題の発表数で実施されました。本発表会は、学生の研究トレーニングの一環と位置付け、聴衆にわかりやすく発表できているかに主眼を置いています。また優秀発表賞(副賞有り)を設けることで、積極的に取り組んでもらえるようにしています。榎原学科長の講評にもあったように、年々研究内容も発表スキルもレベルアップしてきていることから、本発表会の今後のさらなる発展に期待しています。

(文責:医学検査学科 准教授 安楽 健作)



開会の挨拶(崎元学長)



卒業研究発表会の様子

池田 勝義教授「第36回福見秀雄賞」受賞



医学検査学科の池田 勝義教授が、平成29年度「第36回福見秀雄賞」(公益財団法人 黒住医学研究振興財団)を受賞されました。この賞は、臨床検査ならびに衛生検査領域に半生を捧げ、

技術の開発、向上に努力し、かつ、後進の指導育成に貢献のあった方に授与されるものです。誠にありがとうございます。(文責:企画課)

第1回SD研修会

8月23日(水)、キャンパステラスにおいて今年度第1回SD研修会を開催しました。今回は初めて、学外から桑木康宏氏(ハインターナショナル)を講師として迎え、『3つのポリシーに基づく大学の取組の自己点検・評価と内部質保証について』という演題での講演を行い、一般職員にとってはやや難しい教育改革の状況や国が大学に何を求めているのか等の内容をわかりやすく話していただきました。また、今回は職員33名に加え、6名の先生方にもご参加いただきました。

(文責:事務局長 河瀬晴夫)



新アリーナ建築工事・進捗状況

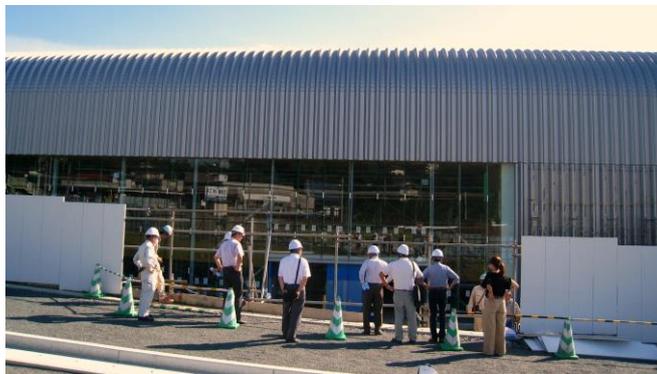
10月3日(火)秋晴れの日に、新アリーナ外観を撮影しました。
(H29.10.3撮影:企画課)



①2号館側より撮影



②50周年記念館側より撮影



③西里駅に近い新アリーナの正面玄関です。着々と進んでおります。

基礎セミナー合同発表会

一年時の必修科目である、基礎セミナーの合同発表会が7/19に開催されました。発表はセミナーごとにポスター発表または口頭発表という形で行われました。学生や教員から質問がとび、活発な議論がなされた一方、指示待ち、与えられた仕事しかない、といったケースも例年以上に見られました。学生が達成感を味わい、この経験をもとに今後自ら積極的に様々な活動に参画していく主体性を身につけてもらうためには、教員側はどのようにサポートしたら良いのか、試行錯誤は続きそうです。

(文責:共通教育センター 准教授 岩井 学)



*

*

私の秘話ヒストリー

今回は看護学科の大坪 昌喜 講師に投稿していただきました。

「もう一つの顔」

私のもう一つの顔、それは20歳代から四半世紀にわたる消防団員としての顔です。消防団とは、本業を持ちながらも“自らの地域は自らで守る”という郷土愛護の精神に基づき消防防災活動を行う非常備の消防機関です。主な活動は火災時の初期消火や風水害時の警戒、火災予防の啓発などであり、地域住民から頼られる存在だと自負しています。巷では「おじさんの集まり」「何かと集まっては酒を飲んでいる」などと言われることもありますが、最近では若い(?)女性も活躍していること(日本の消防団員数856,417名うち女性23,894名。平成28年4月現在)、会合にあっても殊に若い団員は堂々と飲酒を拒むなど隔世の感があります。

本業の傍らですが、一旦緩急あれば業務に就くわけですから日頃からの訓練も欠かせません。折角の休日に訓練が組まれることがありますが、私も含め団員たちは(不満を述べつつも)臨んでいます。本業としての看護、つまり看(み)護(まも)りをする事と、もう一つの顔である地域の見(み)守(まも)りを今後も頑張っていこうと思います。

最後に『火の用心 ことばを形に 習慣に(平成29年度全国統一防火標語)』でした。